第74期　年次報告書

（自　2019年4月1日　至　2020年3月31日）

証券コード5697

株式会社サンユウ

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループは2020年3月31日をもって第74期の事業年度を終了いたしましたので、ここにその事業の概況及び決算の結果についてご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境は小康状態を保っておりましたが、米中貿易摩擦の長期化、中国経済の減速などによる悪化要因に加えて、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により失速し、年度末にはリーマンショック以来の厳しい状況となりました。

わが国のみがき棒鋼及び冷間圧造用鋼線業界（当業界）におきましては、主要需要家である自動車業界の生産活動が低調に推移したことから、2019年暦年における当業界の生産量は1,777千トンと前年に比し117千トン減少いたしました（前年比6.2％減）。

このような経営環境下、当社は2018年11月5日に子会社化した大阪ミガキ株式会社の株式を、一層の効率的生産推進とガバナンス向上のため、2019年5月16日に追加取得（15.5％、累計67.5％）すると共に、全社を挙げて収益の確保に取り組みました。

大阪ミガキ株式会社の連結効果の通期化及び前年度の素材価格値上げの販売価格への転嫁に引き続き注力した結果、売上高は20,437百万円（前期比4.3％増）と増収となりましたが、販売面では、新規取引先の開拓及びＶＡ案件の推進により販売数量の拡大に努めたものの、当社グループを取り巻く需要環境は厳しく、販売数量は125千トン（同4.6％減）となりました。

損益につきましては、販売数量の減少及び生産減に伴うトン当たり製造・販売コストの上昇から、営業利益は345百万円（同50.3％減）、経常利益は376百万円（同46.2％減）、親会社株主に帰属する当期純利益は158百万円（同62.3％減）と減益となりました。

なお、事業部門ごとの業績は次のとおりであります。

まず、みがき棒鋼部門におきましては、販売数量は76千トンとなり、売上高は13,527百万円（同10.9％増）となりました。

次に、冷間圧造用鋼線部門におきましては、販売数量は49千トンとなり、売上高は6,909百万円（同6.6％減）となりました。

当連結会計年度に実施した設備投資の総額は少額投資を中心に267百万円となり、これらの資金は自己資金及び借入金にて賄いました。

わが国経済の今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた経済活動の低迷により、今後も極めて厳しい状況が続くことが予想されます。

わが国の当業界につきましても、主要需要業界である自動車・建設機械分野において、需要回復の見通しが全く立たないことから、引き続き予断を許さない状況が続くものと思われます。

このような経営環境下、当社グループにおきましては、保有する生産設備の効率的且つ最適な稼働を図るなどグループ間・事業所間の連携を一層強化することにより、グループ内経営資源を有効に活用し、連結収益の最大化を追求する所存であります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ以上の諸事情をご賢察のうえ、今後ともご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2020年6月

代表取締役社長　西野淳二

事業の内容

●生産

大阪府内の2工場及び熊本県の九州工場を軸に、品質・数量ともに安定した効率的生産体制を構築しています。

需要家の求めるあらゆる用途や仕様に適合する優れた品質の製品を安定的・効率的に生産し、迅速・確実にお届けするために、大阪府内の枚方市と八尾市及び熊本県菊池市に消費地密着型のみがき棒鋼（普通鋼・構造用鋼、合金鋼、快削鋼、ステンレス鋼）と冷間圧造用鋼線（普通鋼・構造用鋼、合金鋼）の工場を展開しています。枚方市にある本社工場では、みがき棒鋼の多品種生産を行うとともに精密加工により、高付加価値製品を産み出しています。八尾工場及び九州工場では、みがき棒鋼を生産するとともに自動酸洗設備及び熱処理炉を最大限に活用した冷間圧造用鋼線の生産により、自動車関連需要に対応しています。高炉・電炉メーカーの厳しい品質管理のもとで生産された優れた素材を使用することにより、良質のみがき棒鋼及び冷間圧造用鋼線を生産し多くの産業界に提供しています。

●品質管理

鉄鋼メーカーと共同でよりよい品質の製品を開発しており、厳しい品質管理体制は需要家にも定評があります。

技術革新の著しい進展のなかで、製品に対する品質要求はますます高まっています。当社グループでは、高品質の製品を生産するために、その生命線ともいうべき引抜ダイスの寸法精度を厳密に管理するとともに製品の寸法精度や形状精度を向上させ、表面きず等を低減させるために、徹底した工程内検査や厳格な出荷前検査を実施しています。特に表面きずについては渦流探傷機等を活用し、万全の注意を払って検査しております。
また、鉄鋼メーカーとは新製品・新技術の開発計画、品質等について定期的に検討会を開催し、共同での改善・開発や共同品質管理体制を確立しています。
㈱サンユウにおきましては、ISO9001及びISO14001の国際規格を認証取得しており、今後とも品質の充実を図ってまいります。

●物流

業界随一の自動立体倉庫を軸に多品種の標準製品を常備在庫し、多様なニーズに即応できる全国的な物流・情報ネットワークを構築しています。

「必要なとき必要な製品を必要なだけ供給する」といった販売基本方針のもと、製品を供給するために、全国をカバーする物流・情報ネットワークを構築しています。その核となるのが、大阪府内2カ所に設けた立体倉庫で、常時9,000トンもの多彩な標準製品をストックしています。特に東大阪市に設置した業界初の自動立体倉庫では入出庫管理はすべてコンピューター化されているので、需要家が求める製品がどこにあるかを瞬時に検索することができるようになっています。その結果、効率的な搬出入作業が可能となり、近畿圏の即納体制を確立しています。
また、北海道から九州まで、全国各地を網羅した地域特約店との関係を強化することにより、㈱サンユウの各営業店舗並びに子会社の大阪ミガキ㈱及び大同磨鋼材工業㈱の各拠点と合わせて全国的な物流・情報ネットワークを構築しています。

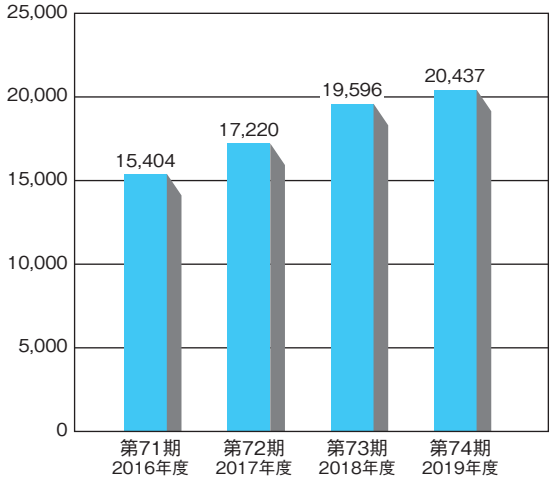
●技術

優れた良質の素材と最新の技術力、設備力で、高精度・高品質のみがき棒鋼及び冷間圧造用鋼線を効率的に生産しています。

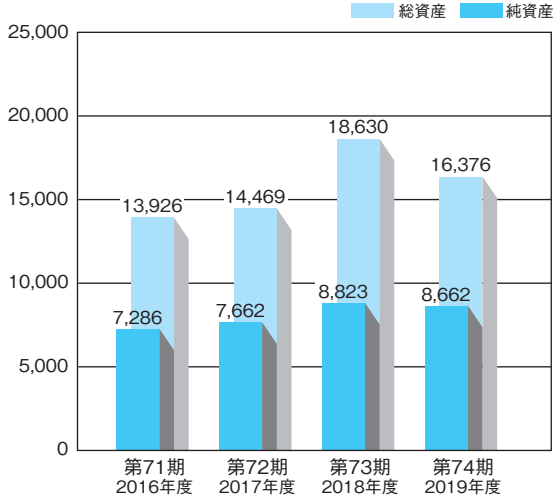
みがき棒鋼及び冷間圧造用鋼線は、鉄鋼メーカーの優れた品質の熱間圧延材を使用し、冷間引抜加工等により生産しています。冷間引抜加工とは、厳密な寸法・形状の穴型をもつ引抜ダイスと呼ばれる超硬合金製の工具で、少し大きい寸法の素材を穴型を通して引き抜くことにより、穴型の寸法・形状に成型する加工方法のことをいいます。
このうち、みがき棒鋼は（引き抜き－矯正）工程または（表面切削（ピーリング）－矯正）工程により精密な寸法・形状に仕上げられた棒状の製品をいい、引抜機は細物用に使用する連続抽伸機と太物用に1本ずつ引き抜く棒鋼引抜機（ドローベンチ）の2種類を使用しています。当社グループでは、最新の連続抽伸機、棒鋼引抜機、ピーリング及び矯正機を導入し、精密で高品質の製品を効率よく生産し、さまざまな需要家ニーズに応じています。
一方、冷間圧造用鋼線は、自動酸洗設備で表面の酸化皮膜を除去した後、伸線機で引き抜くことにより精密な寸法・形状に仕上げられたコイル状の製品をいい、熱処理設備で熱処理を行うことにより、高品質の製品を生産し好評を得ています。

連結業績の推移

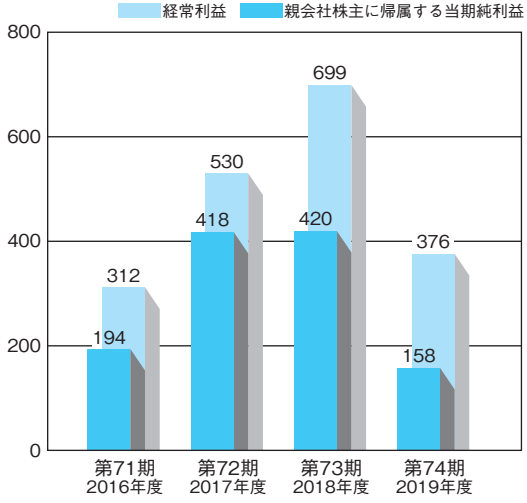
売上高（単位:百万円）



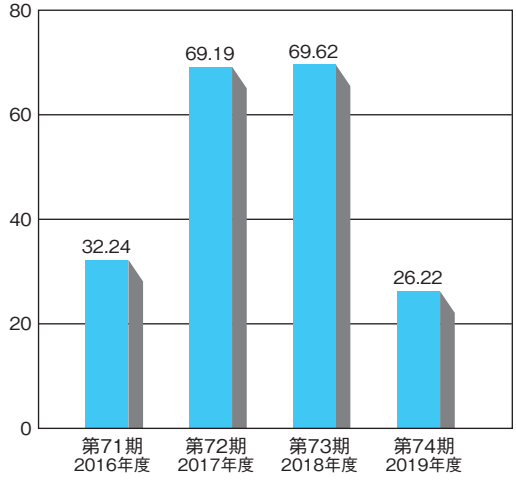
総資産・純資産（単位:百万円）



経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益（単位:百万円）



1株当たり当期純利益（単位:円）



連結財務諸表の要旨

連結貸借対照表（2020年3月31日現在）

（単位:千円）

科目	金額
［資産の部］	
流動資産	**10,704,843**
現金及び預金	1,567,202
受取手形及び売掛金	5,297,603
棚卸資産	3,850,720
その他	△ 10,682
固定資産	**5,671,531**
有形固定資産	**5,253,186**
建物及び構築物	1,449,968
機械装置及び運搬具	1,903,223
土地	1,734,832
その他	165,161
無形固定資産	**160,445**
投資その他の資産	**257,899**
資産合計	**16,376,375**
［負債の部］	
流動負債	**6,559,500**
支払手形及び買掛金	4,016,345
短期借入金	1,410,000
1年内返済予定の長期借入金	324,040
その他	809,114
固定負債	**1,154,024**
長期借入金	875,168
退職給付に係る負債	113,454
その他	165,401
負債合計	**7,713,524**
［純資産の部］	
株主資本	**8,078,072**
資本金	**1,513,687**
資本剰余金	**1,303,508**
利益剰余金	**5,282,269**
自己株式	**△ 21,392**
その他の包括利益累計額	**2,312**
その他有価証券評価差額金	**2,312**
非支配株主持分	**582,464**
純資産合計	**8,662,850**
負債・純資産合計	**16,376,375**

（注） 1. 連結子会社は、大阪ミガキ株式会社及び大同磨鋼材工業株式会社の2社であります。
2. 有形固定資産の減価償却累計額 12,379,739千円

連結損益計算書（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位:千円）

科目	金額
売上高	20,437,684
売上原価	17,702,864
売上総利益	**2,734,820**
販売費及び一般管理費	2,389,428
営業利益	**345,391**
営業外収益	72,596
営業外費用	41,528
経常利益	**376,459**
特別利益	269
特別損失	26,778
税金等調整前当期純利益	**349,951**
法人税、住民税及び事業税	164,260
法人税等調整額	△ 17,112
当期純利益	**202,803**
非支配株主に帰属する当期純利益	**44,334**
親会社株主に帰属する当期純利益	**158,469**

（注）1株当たり当期純利益 26円22銭

連結キャッシュ・フロー計算書（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位:千円）

科目	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	476,321
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 351,617
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 741,666
現金及び現金同等物の減少額	△ 616,962
現金及び現金同等物の期首残高	2,184,165
現金及び現金同等物の期末残高	1,567,202

連結株主資本等変動計算書（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位:千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式
当期首残高	1,513,687	1,318,057	5,214,468	△ 21,392
当期変動額				
剰余金の配当			△ 90,667	
親会社株主に帰属する当期純利益			158,469	
連結子会社株式の取得による持分の増減		△ 14,549		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	—	△ 14,549	67,801	—
当期末残高	1,513,687	1,303,508	5,282,269	△ 21,392

	株主資本	その他の包括利益累計額	非支配株主持分	純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		
当期首残高	8,024,820	4,159	795,000	8,823,980
当期変動額				
剰余金の配当	△ 90,667			△ 90,667
親会社株主に帰属する当期純利益	158,469			158,469
連結子会社株式の取得による持分の増減	△ 14,549			△ 14,549
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		△ 1,847	△ 212,535	△ 214,382
当期変動額合計	53,252	△ 1,847	△ 212,535	△ 161,129
当期末残高	8,078,072	2,312	582,464	8,662,850

個別財務諸表の要旨

貸借対照表（2020年3月31日現在）

（単位:千円）

科目	金額
［資産の部］	
流動資産	**7,979,346**
現金及び預金	604,721
受取手形及び売掛金	4,363,393
棚卸資産	3,009,773
その他	1,457
固定資産	**6,212,237**
有形固定資産	**4,128,654**
建物及び構築物	1,350,737
機械装置及び運搬具	1,436,736
土地	1,239,532
その他	101,648
無形固定資産	**65,964**
投資その他の資産	**2,017,618**
資産合計	**14,191,583**
［負債の部］	
流動負債	**5,352,174**
支払手形及び買掛金	3,697,243
短期借入金	860,000
1年内返済予定の長期借入金	220,700
その他	574,231
固定負債	**809,756**
長期借入金	675,600
退職給付引当金	69,225
その他	64,930
負債合計	**6,161,930**
［純資産の部］	
株主資本	**8,026,334**
資本金	**1,513,687**
資本剰余金	**1,317,207**
利益剰余金	**5,216,832**
自己株式	**△ 21,392**
評価・換算差額等	**3,318**
その他有価証券評価差額金	**3,318**
純資産合計	**8,029,652**
負債・純資産合計	**14,191,583**

（注）有形固定資産の減価償却累計額　10,118,396千円

損益計算書（自　2019年4月1日　至　2020年3月31日）

（単位:千円）

科目	金額
売上高	16,864,149
売上原価	15,174,212
売上総利益	**1,689,937**
販売費及び一般管理費	1,507,358
営業利益	**182,579**
営業外収益	68,241
営業外費用	26,442
経常利益	**224,378**
特別利益	19
特別損失	26,756
税引前当期純利益	**197,642**
法人税、住民税及び事業税	75,565
法人税等調整額	△ 177
当期純利益	**122,254**

（注）1株当たり当期純利益　20円23銭

会社の概要

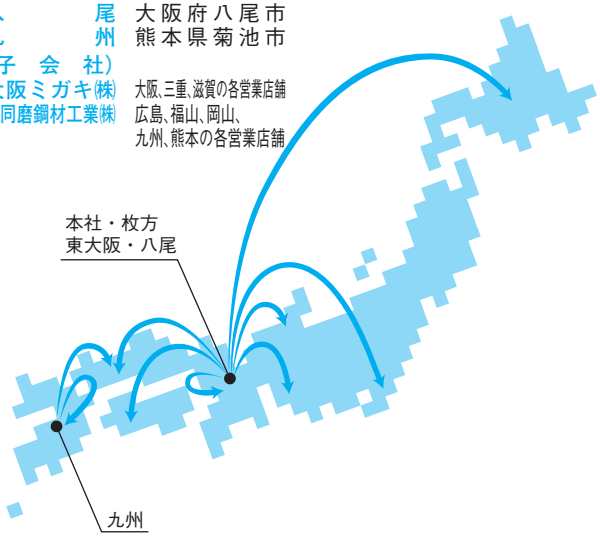
2020年3月31日現在

社名	株式会社サンユウ
所在地	本社／大阪府枚方市春日北町3丁目1番1号 電話：072-858-1251　FAX：072-858-2672
設立	1957年1月
資本金	1,513百万円
従業員数	200名（単体）、308名（連結）
事業内容	みがき棒鋼の製造、加工及び販売 冷間圧造用鋼線の製造、加工及び販売

主な事業所及びネットワーク

2020年3月31日現在

本社	大阪府枚方市
（営業店舗）	
枚方	大阪府枚方市
東大阪	大阪府東大阪市
八尾	大阪府八尾市
九州	熊本県菊池市
（工場）	
本社	大阪府枚方市
八尾	大阪府八尾市
九州	熊本県菊池市
（子会社）	
大阪ミガキ㈱	大阪、三重、滋賀の各営業店舗
大同磨鋼材工業㈱	広島、福山、岡山、九州、熊本の各営業店舗



重要な子会社の状況

2020年3月31日現在

会社名	資本金	当社の議決権比率	主要な事業内容
大阪ミガキ株式会社	40百万円	67.5%	みがき棒鋼の製造及び販売
大同磨鋼材工業株式会社	20百万円	100.0%	鋼材の販売

（注）当社は、2018年11月5日に子会社化した大阪ミガキ株式会社の株式を、一層の効率的生産推進とガバナンス向上のため、2019年5月16日に追加取得（15.5%、累計67.5%）いたしました。

役員

2020年6月25日現在

代表取締役社長	西野淳二
取締役	加藤和彦
取締役	清水良寛
常勤監査役	藤田典明
監査役	仲山隆之
監査役	生方徹
上席執行役員	水野由実
上席執行役員	松井亮一
上席執行役員	八木信郎
執行役員	大槻晃弘
執行役員	笹山英俊
執行役員	向井徹
執行役員	大木光一
執行役員	安積光治

（注）1. 取締役清水良寛氏は社外取締役であります。
2. 監査役藤田典明、仲山隆之及び生方徹の3氏は社外監査役であります。

株式の状況

2020年3月31日現在

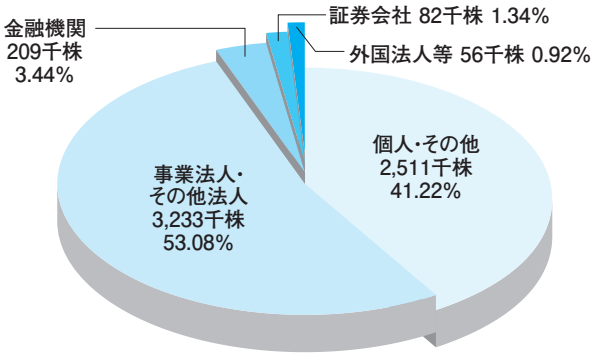
発行可能株式総数	19,344,000株
発行済株式の総数	6,091,000株
株主数	1,273名

大株主（上位10名）

株主名	持株数	持株比率
日本製鉄株式会社	2,035 千株	33.67 %
村岡克彦	362	6.00
株式会社メタルワン	315	5.21
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	295	4.88
日鉄物産株式会社	250	4.14
永田麻里	187	3.10
佐藤商事株式会社	180	2.98
サンユウ従業員持株会	163	2.71
柏木伸夫	135	2.25
株式会社りそな銀行	110	1.82

（注）持株比率は、発行済株式の総数から自己株式（46,496株）を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当金　毎年3月31日 中間配当金　毎年9月30日 その他必要がある時は、あらかじめ公告して定めます。
公告方法	電子公告により当社ホームページ（http://www.sanyu-cfs.co.jp）に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
各種お問合せ先 郵便物送付先	〒541-8502　大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社　大阪証券代行部 電話 0120-094-777（通話料無料）
※受付時間	9：00～17：00（土、日、祝祭日、年末年始を除く）

IRメール配信のお知らせ

当社では、株主・投資家の皆様向けにIRメールを配信しています。

配信をご希望の方は、下記アドレスから簡単にご登録（無料）いただけます。

https://rims.tr.mufg.jp/?sn=5697

IRメール配信サービスは、三菱UFJ信託銀行株式会社が運営しています。